



蛭田道夫*

技術が支える第5次環境計画

Mitsubishi Electric's 5th Environmental Plan Supported by Technology

Michio Hiruta

要旨

三菱電機グループでは“すべての事業活動及び社員行動を通じ、これまで培った技術と今後開発する技術によって環境の保全と向上に努める”という環境基本理念のもと、1993年から具体的な活動目標をグループの環境計画として策定し、環境負荷低減、環境経営向上に取り組んできた。

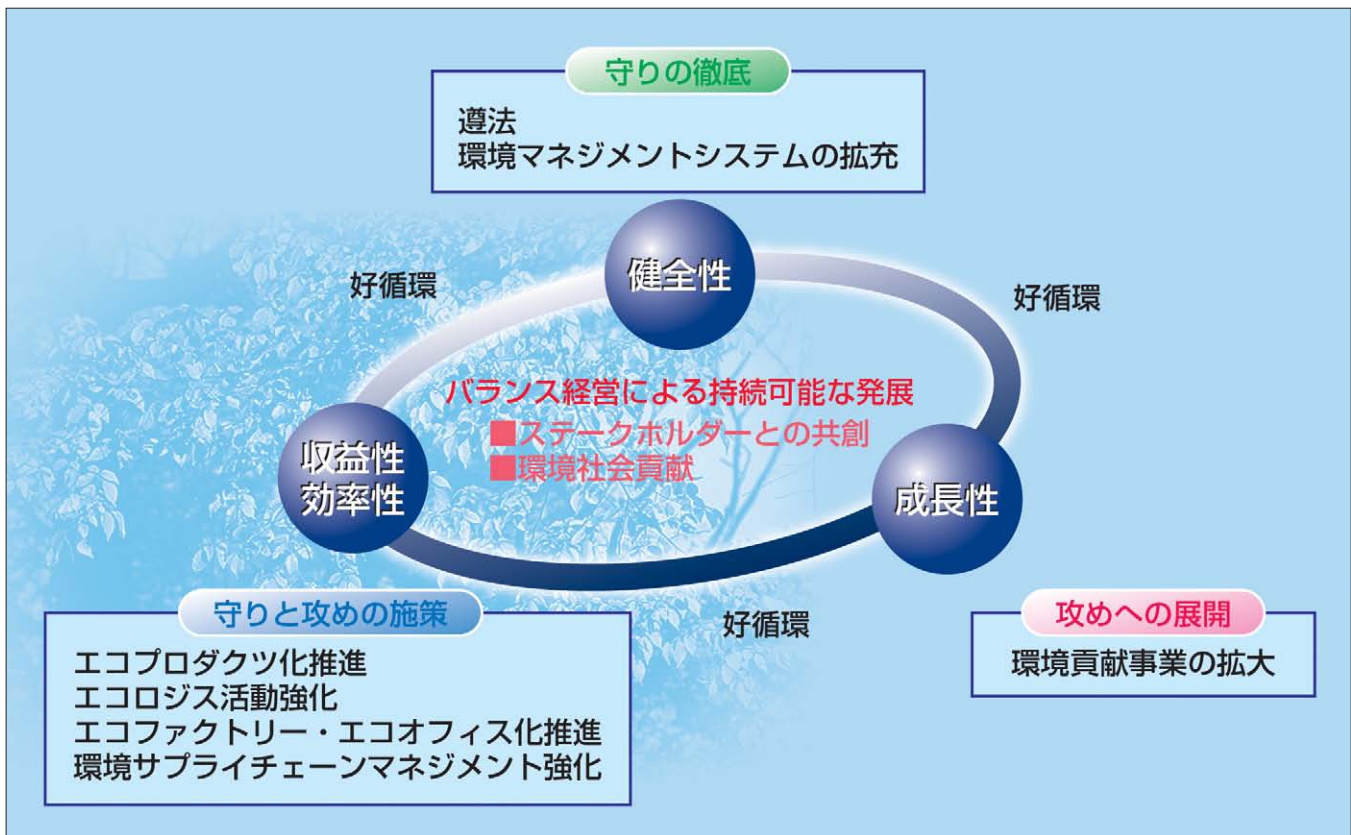
第4次環境計画(2003~2005年度)では、工場・製品・物流などすべての活動で環境配慮を徹底し、グローバルレベルでの環境基盤整備、環境効率の向上等の成果を得た。

2006年度から取り組んでいる第5次環境計画では、“守り”と“攻め”の諸施策を推進し、グローバル連結環境経営を拡充して、サプライチェーン全体で環境パフォーマンス向上を図ることをねらっている。当社グループは、“成長

性”“収益性・効率性”健全性”からなるバランス経営を推進しているが、第5次環境計画の諸施策によって、当社グループのバランス経営を強化し、“環境計画”と“会社経営”を一体化していくことを目指している。

これらの施策を展開する上で源泉となるのが技術である。当社グループは、エネルギーの効率化やオゾンを利用した水処理など環境負荷を低減する技術開発に地道に取り組んできた。これまで培ってきた“高度な開発技術力”によって環境効率を高めたエコプロダクツやサービスを提供することが我々メーカーの使命であると考えている。

本稿では、第5次環境計画を推進する上で必要不可欠な技術の一端について述べる。



バランス経営を支える環境経営

三菱電機グループは、“成長性”“収益性・効率性”“健全性”からなるバランス経営を推進している。第5次環境計画での諸施策によって、当社グループのバランス経営を強化し、“環境計画”と“会社経営”を一体化していくことを目指している。